

ふれあい 雪谷

平成12年

もみじ子



(小池 門倉工さんの作品)



母校の思い出 ③

ささや
呑川の囁くほとり……

季節感がなくなってきたといわれて久しい今日この頃ですが、我が母校「雪小」には季節の彩りを感じられる風景がたくさんあります。

私が通っていた頃（かれこれ四半世紀もたちましようか）と変わらずに咲き誇る呑川辺りの桜がその代表でしょう。入学式には満開の桜が。初夏の頃には新緑に包まれ、遠足へ行く子供たちを見送ってくれました。秋の運動会には落ち葉を散らせはじめて、朝の練習の時には足でけ散らしながら歩いた事を思い出します。



呑川もカモが水浴びしていたり、まれに鯉がいたりすることもありました。

校歌にも唄われるほど“緑かぐわしすがすがし”い環境にある学び舎でした。

校庭のあちらこちらに各学年が育てている植木が置かれていました。今見ればそれほどでもないのですが、小学生の頃はあの校庭も広く感じられ、体育の時間に校庭一周などと言われると、担任を恨んだものです。

6年間通った道の周りの景色はずいぶんと変わってしまいましたが、雪小の校舎、呑川、桜は今も変わらずそこにあります。今でも雪小の前を通ると、子供の頃の事（特に放課後の事）を時々思い出したりします。

懐かしい風景は心を和ませてくれます。

自分も子供を持つようになり、心豊かに育てて欲しいと願うようになりました。いつまでもそんな想いがかなう学校であってほしいものです。

(石川台 木所 美和子)

サークル紹介 ⑩

ボーイスカウト三葉少年団

ボーイスカウトという組織がある事は知っていても、活動の詳細をご存じの方は少ないと思います。

ボーイスカウトではビーバースカウトからカブスカウト・ボーイスカウト・ベンチャースカウトへと続く各年代の子供たちの特質に合わせたカリキュラムに沿って活動しています。

これが第一の特徴で、進歩制度といえます。

また、ボーイスカウトでは6人前後を一つのグループとし活動の単位としています。自治単位である少グループの中で、所属する子供たちが持つ、それぞれの特質を伸ばしながら

ら成長して行く為のもので、これを班編成と呼びます。



三葉少年団がこの地で、

この二大制度を柱に地域に根ざした活動をはじめて七十四年経ちました。今後も私たち少年団のリーダーは、スカウト運動の主役である子供たちの為に、研鑽をつみ一層の努力をしていきます。子供はスカウトとして、大人はリーダーとして、個々の特質をいかしながらの楽しい活動に、是非あなたも参加してください。

ベンチャー隊長 田島 道治(小池)

私の健康法 ⑥

私は大正十年十一月に、父の勤務地栃木県日光町の標高六百米急流の谷川がある山合に生まれました。

幼少期は丈夫とは言えなかったが近くの沢で岩魚を追い、スケートに明け暮れ、中学の弓道入部で漸次体力を得た。



青白き浪人を一年経験して学生になったが、体力強化から離れ文化部で毎日が過ぎた。

学徒動員での軍隊生活は現在では体験出来ないであろう鍛えられかたで、激動の戦後を耐え得る体力氣力を得たと思う。

「編集後記」

地域の皆様例年ない猛暑の夏でしたが、どの様にお過ごしになりましたか？今年度は五年に一度の国勢調査があります。調査員の方々にはご苦労多いことでしょう。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(東中 直井)



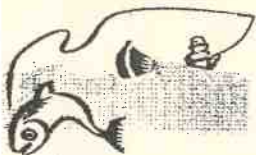
〔発行〕わがまち大田雪谷地区推進委員会
〔編集〕ふれあい雪谷編集委員会
連絡先 雪谷特別出張所
大田区東雪谷四一三一二三
電話 三七九一五一一七
〔発行日〕平成十二年十月一日
通巻第四十号

現在特に健康法を持っているわけではないが、ごく当たり前に食生活では好き嫌がなく、よく噛み、百薬の長は毎夕少々だが欠かさず。体力維持のための歩きは毎日とはいかず、反省の繰り返しである。

精神的緊張持続のため、趣味の余技研鑽は幸い継続。在職した会社の倶楽部の世話役をして人々との交流は続けられ、結構張りを感じる日々である。

年をとるもの。故障が生じるのも当然で修繕しながら大過なく暮らせればと願っている。

(笹丸 内藤 敬六)





母の介護

母は明治42年生まれで、今年91歳になります。若い時からそれ程身体が丈夫というわけではなく、時々、すぐ手術をしなければ命が危ないというような病気になりました。その度になんとか回復し、普通の生活ができるようになりました。

それが20年程前、外で転んで膝のお皿にひびが入って40日程歩けなくなりました。すぐに食事と排泄の介護が始まり、これが私の老人介護の最初でした。それから母は特に病気になるとうきも年を重ねていきました。

そのうちに足が痛い腰が痛い背中が痛いなどというようになり、その痛みも相当にひどいものになりました。あちこちの病院に診て頂きましたが、どこでも加齢による身体変化だと言われるだけでした。それが6年前から急に歩行も困難になり、また視力も衰えほとんど失明状態になりました。家の中でも杖なしでは歩けなくなりました。トイレも一人では行かれず、入浴はもちろんのこと着替えも出来ず、何もかも人の手を借りるようになりました。しかし、食事はいすに座って一人で食べられます。また頭脳もまだ正常で何でも解っています。それは本当に有難いことだと思っています。

マッサージの先生は週3回みえますが、当日はシャワーや着替え、つめ切りなどに追われます。

今年の3月に廊下で転んで尻もちをつきました。その時背中も打ったらしく、ますます背中を真っ直ぐに伸ばすことが出来ません。

ベットで寝返りすると、とんでもない所に行ってしまう。2度ベットから落ちてしまいました。それからは、寝る時も、起きる時も、寝返りを打つ時も私を呼びます。

あまりひんぱんに呼ばれると、69歳の私はニコニコ対応出来ず、つい大声で話したりしてしまいます。このように私と夫は母にしばられている状態です。しかし母は声を出せば誰か来てくれると安心してしています。

老老介護は問題です。そして私が感じていることは、老いは個人差が大変大きいということです。またこれからは少子化の時代を迎えます。出来るだけ早く精密な介護ロボットが開発されて、長寿者も、また介護者も満足のゆく人生を送りたいものだと考えております。精神的にも肉体的にもゆとりを持ちたいものです。

(笹丸 直井みよ子)



この情報誌は古紙70%の用紙を使用しています。

案になった雪谷大塚駅

一ヶ月、いやもっとまえからかな。あの駅の工事はこれを作っていたんだと思いながら、初めてエレベーターに乗りました。とても快適でした。乗る方の扉と降りる方の扉が開くので便利です。

暑い時は階段を歩く元気が出ず、おかげで助かっています。車椅子の方も使いやすくなったでしょう。

あとは駅周辺のバイク、自転車の止めかたにちょっと気をつけられ、とてもきれいで、使いよい駅になるでしょう。

なお、上り専用のエスカレーターも設置されたので、とても便利になりました。

(南雪谷 土屋 耀明)

こんな良い子に会いました

それは六月四日だったと思います。

私は今年で八十八歳になりますが、骨粗鬆症になり整形外科に通っております。そして、町会会館の横の坂を登って帰宅します。

その日も杖を突いて坂を登り始めました。すると学習塾を終えて帰ってきた二年生か三年生位の子どもが出てきました。私の杖を突いた姿が痛々しかったのか

「おばあちゃん、だいじょうぶ？」

と声をかけてくれました。私は「だいじょうぶよ。」

と返事をしましたら、つづけて

「何かお手伝いしましょうか？」

と親切な言葉をかけて下さるのです。私は

「有り難う。優しいのね。だいじょうぶだから、あなたも気をつけて帰るのよ。」

と言って右と左に別れました。

今時、十歳ばかりのお子さんに、こんなに優しい言葉がでてるのは、余程優しいご両親に育てられたのでしょうか。またお年寄りと一緒に、いたわる心をしつけられたのでしょうか。お名前を伺っておかなかったことを悔やんでおります。

きっと雪小の生徒さんだと思います。こんな思いやりのあるお子さんは、末頼もしい青年になることと、とても嬉しくなりました。私の娘や孫も雪小を卒業しました。先生方の良きご指導の賜物と存じ、今さらながら感謝申し上げる次第でございます。

(希望 積山 茶々)



交通事故

～交通安全は家庭から～



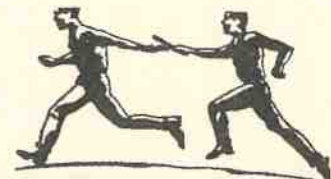
★ 心にゆとり・・・

★ 家族で安全教育・・・

田園調布警察署

自治会リレー随筆

先輩から後輩へ



昔と今随分と町が変わった。

二十年前、いや十年前にいた人たちがいつのまにか何処にいたのか。父親の代よりこの地で木材業を始めて八十年が過ぎ、今は亡き人も多いが、同年輩の人がやたらと少なくなったと思う。

近くの呑川の流れが変わったように、人の流れも大いに変わった。ビル、マンション等が数多く建ち並び人口が増えたのに、何か違う気がする。朝店を開けた時に挨拶する人が減ったからだと思う。

最近年賀状、暑中見舞い等の宛名にタックシールを貼ってくる。私は古いのか、今でも手書きで出している。この人が今どうしているのか、どんな所に住んでいるのかを想像しながら、一枚一枚書く。昔世話になった疎開先の二代目か三代目の方々を思い出しながら書くことによって、人の心と元気が伝えられると思う。

今の立派な自治会館、また祭礼等に欠かせない山車、御神輿や町づくり、コミュニケーションの大切さを色々と教え残して頂いた、自治会の先輩方に感謝している。

これからは後輩にどのように残し伝えられるか。たとえば自治会の財産の管理、また三十年、四十年後に自治会館の建替えがあるかもしれない。そのための用意も今からだと思う。我々も後輩たちや多くの人たちと共に、今の自治会の財産を減らすことなく、明るい町づくりをして、後輩にバトンタッチしていきたい。

その時まで、後輩も人間関係等、創意の心豊かな次世代をコンピテンシー（指導力）を持って育ててもらいたい。

(石川台 豊田 進)



俳句

実さくろの 日毎に映ゆる 小提灯

(上池上 岡田 八重)

羊ぐさの 景づれさやかに 今朝の秋

(上池上 服部 あさえ)

山の秋 まるごと入れて 画帳用紙

(東雪 西堀 愛美)

野点庫 爽やかに蝶 舞はしめる

(東雪 西堀 愛美)

秋陰や 落剥しげき 杉戸の絵

(希望 松川 五十五)

川柳

神棚に 敬老金も おがまれり

おばあちゃんといつてる自分も おばあさん

(雪谷地区の民生委員さん)

